

定期作況報告

平成14年11月
(11月20日現在・最終)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月：上旬の最高気温は平年並、最低気温はやや高く、平均気温は平年並であった。中旬の最高気温・最低気温・平均気温は平年より極めて高かった。下旬の最高気温・最低気温は平年より高く、平均気温は極めて高かった。日平均気温の月平均は6.6 で平年より2.5 高かった。降水量は上旬・中旬が平年よりやや少なく、下旬は平年並であった（月合計24.5mmで平年の52%）。日照時間は上旬が平年並、中旬・下旬はやや多かった。（月合計198.4時間で平年の140%）。

5月：上旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温はやや高く、平均気温は極めて高かった。中旬・下旬の最高気温・最低気温・平均気温は平年並であった。降水量は上旬・中旬が平年より極めて少なく、下旬は平年並であった（月合計17.5mmで平年の26%）。日照時間は上旬が平年より極めて多く、中旬・下旬は平年並であった（月合計192.4時間で平年の146%）。

6月：上旬の最高気温は平年に比べて極めて高く、最低気温は高く、平均気温は極めて高かった。中旬の最高気温は平年に比べて極めて低く、最低気温はやや低く、平均気温は低かった。下旬の最高気温・最低気温・平均気温は平年より極めて低かった。降水量は上旬が平年並、中旬は平年よりやや少なく、下旬は平年よりやや多かった（月合計50.5mmで平年の84%）。日照時間は上旬が平年並、中旬は平年より少なく、下旬は平年並であった（月合計116.7時間で平年の96%）。

7月：上旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温・平均気温は平年並であった。中旬の最高気温・最低気温・平均気温は平年並であった。下旬の最高気温・最低気温・平均気温は平年に比べて低かった。降水量は上旬が平年よりやや少なく、中旬は平年より多く、下旬は平年並であった（月合計137.0mmで平年の122%）。日照時間は上旬・中旬が平年並、下旬は平年よりやや少なかった（月合計85.5時間で平年の79%）。

8月：上旬の最高気温は平年に比べて極めて低く、最低気温・平均気温は平年に比べて低かった。中旬の最高気温は平年に比べて極めて低く、最低気温・平均気温は平年に比べて低かった。特に8月12日には最低気温が8.7 まで低下した。下旬の最高気温は平年より極めて低く、最低気温は平年より低く、平均気温は平年より極めて低かった。日平均気温の月平均は16.6 で平年より2.4度低かった。降水量は上旬・中旬が平年並、下旬は平年よりやや少なかった（月合計119.5mmで平年の107%）。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬・下旬は平年並であった（月合計112.0時間で平年の87%）。

9月：上旬の最高気温・最低気温・平均気温は平年よりやや高かった。中旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温は平年より極めて低く、平均気温は平年より低かった。下旬の最高気温は平年並、最低気温・平均気温は平年よりやや低かった。降水量は上旬が平年並、中旬は平年よりやや少なく、下旬は平年並であった（月合計107.5mmで平年の64%）。日照時間は上旬・中旬が平年並、下旬は平年よりやや多かった（月合計144.0時間で平年の121%）。

10月：上旬の最高気温は平年より高く、最低気温は平年より極めて高く、平均気温は平年より高かった。中旬の最高気温・最低気温・平均気温は平年並であった。下旬の最高気温は平年より極めて低く、最低気温はやや低く、平均気温は低かった。日平均気温の月平均は8.3 で平年と等しかった。降水量は上旬が平年より多く、中旬は平年より極めて少なく、下旬は平年並であった（月合計102.0mmで平年の151%）。日照時間は上旬が平年並、中旬は平年より多く、下旬は平年並であった（月合計149.9時間で平年の105%）。

11月：上旬の最高気温は平年より低く、最低気温・平均気温ははやや低かった。中旬の

最高気温は平年よりやや低く、最低気温は低く、平均気温ははやや低かった。降水量は上旬が平年よりやや少なく、中旬は平年並であった。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬は平年より多かった。

注)降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

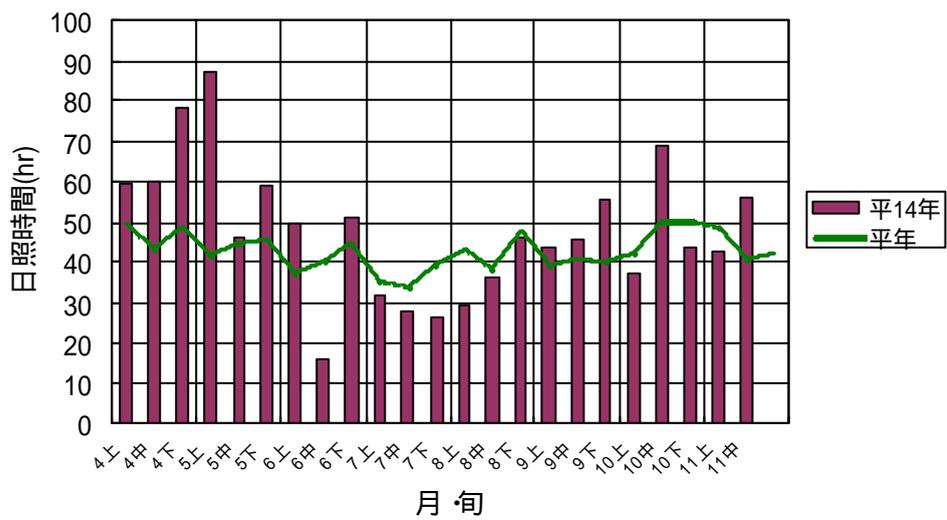
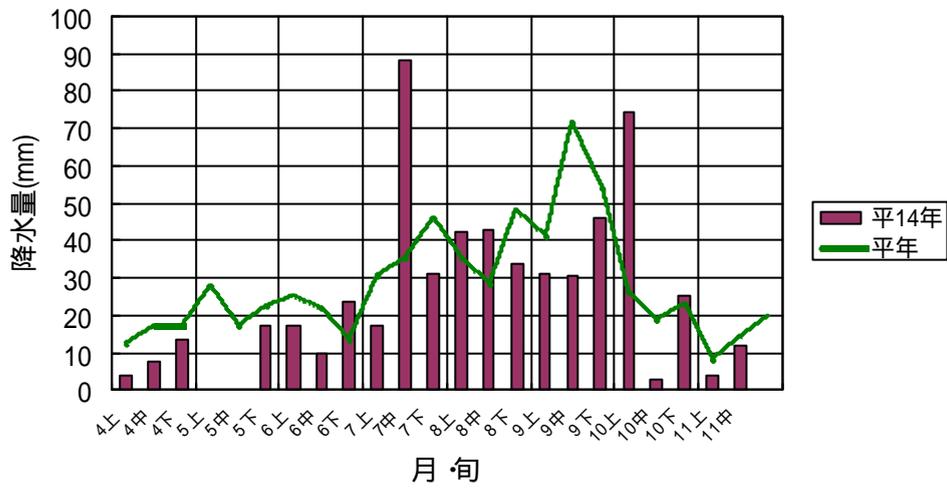
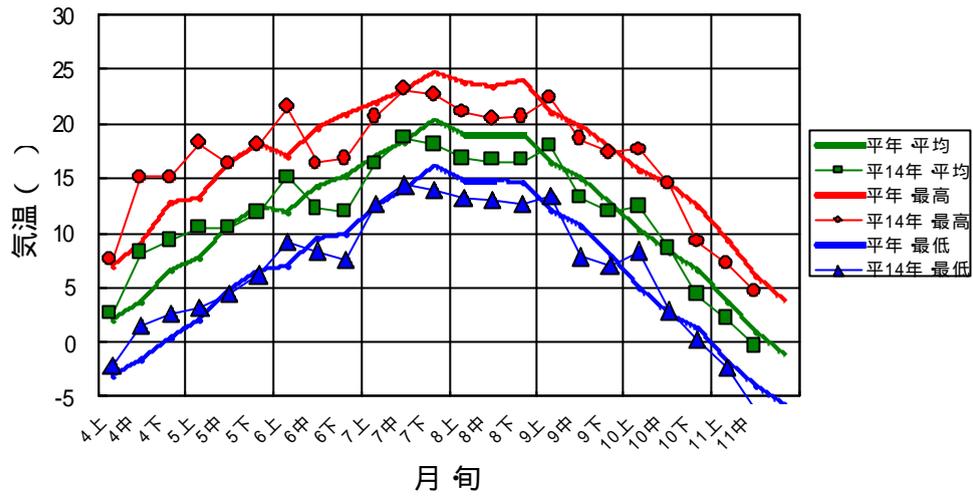
気温：5月は平年よりやや高く、6月～7月が平年よりやや低く、8月は低く、9月は平年並であった。この期間の平均気温の積算値は2230.7 で、平年より108.6 少なかった。

降水量：7月が多く、5月・6月・9月は少なかった。8月は平年並であった。この期間の降水量の積算は432.0mmで、平年より87.0mm少なかった。

日照時間：5月・9月が多く、7月・8月は少なかった。6月は平年並であった。この期間の日照時間の積算は650.6時間で、平年より41.1時間多かった。

以上のことから、本年の農耕期間中の気象は、気温が低く、降水量はやや少なく、日照時間はやや多かった。

2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3) 気象表

月・旬	平均気温()			最高気温()			最低気温()			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較									
4上	2.4	2.0	0.4	7.6	7.1	0.5	-2.2	-3.2	1.0	3.5	12.4	8.9	59.6	50.0	9.6
4中	8.0	3.6	4.4	15.2	8.9	6.3	1.4	-1.5	2.9	7.5	17.4	9.9	60.3	43.2	17.1
4下	9.3	6.7	2.6	15.2	12.9	2.3	2.6	0.5	2.1	13.5	17.1	3.6	78.5	48.9	29.6
5上	10.5	7.7	2.8	18.3	13.3	5.0	3.1	2.0	1.1	0.0	28.1	28.1	87.2	41.7	45.5
5中	10.4	10.6	0.2	16.3	16.6	0.3	4.4	4.7	0.3	0.0	17.0	17.0	46.2	44.7	1.5
5下	11.9	12.4	0.5	18.1	18.2	0.1	6.2	6.7	0.5	17.5	22.7	5.2	59.0	45.5	13.5
6上	15.2	12.0	3.2	21.6	17.1	4.5	9.2	7.1	2.1	17.5	25.0	7.5	49.6	36.9	12.7
6中	12.2	14.3	2.1	16.5	19.6	3.1	8.3	9.4	1.1	9.5	22.0	12.5	15.9	40.0	24.1
6下	11.9	15.3	3.4	16.8	20.9	4.1	7.5	10.0	2.5	23.5	13.4	10.1	51.2	44.5	6.7
7上	16.5	17.0	0.5	20.6	22.0	1.4	12.6	12.4	0.2	17.5	30.7	13.2	31.6	34.9	3.3
7中	18.7	18.3	0.4	23.2	23.1	0.1	14.3	13.9	0.4	88.5	35.1	53.4	27.5	33.9	6.4
7下	18.1	20.2	2.1	22.7	24.7	2.0	13.9	16.2	2.3	31.0	46.3	15.3	26.4	39.1	12.7
8上	16.8	19.0	2.2	21.1	23.8	2.7	13.1	14.7	1.6	42.5	35.4	7.1	29.4	43.0	13.6
8中	16.5	18.9	2.4	20.5	23.4	2.9	13.0	14.9	1.9	43.0	28.5	14.5	36.4	38.2	1.8
8下	16.6	19.1	2.5	20.7	24.0	3.3	12.7	14.7	2.0	34.0	48.0	14.0	46.2	47.6	1.4
9上	17.9	16.5	1.4	22.4	21.1	1.3	13.4	12.2	1.2	31.0	41.4	10.4	43.3	38.9	4.4
9中	13.3	15.0	1.7	18.6	19.8	1.2	7.8	10.5	2.7	30.5	71.7	41.2	45.3	40.7	4.6
9下	11.9	12.7	0.8	17.3	17.8	0.5	6.9	7.8	0.9	46.0	54.0	8.0	55.4	39.9	15.5
10上	12.4	10.3	2.1	17.7	15.8	1.9	8.4	5.0	3.4	74.5	26.2	48.3	37.3	42.2	4.9
10中	8.6	8.2	0.4	14.5	14.4	0.1	2.9	2.5	0.4	2.5	18.7	16.2	69.0	50.2	18.8
10下	4.2	6.6	2.4	9.3	12.5	3.2	0.2	1.4	1.2	25.0	22.9	2.1	43.6	50.1	6.5
11上	2.2	3.7	1.5	7.2	9.3	2.1	-2.4	-1.8	0.6	3.5	8.2	4.7	42.9	48.4	5.5
11中	-0.5	0.9	1.4	4.6	6.0	1.4	-6.2	-4.1	2.1	11.5	13.8	2.3	56.3	40.8	15.5

4) 季節表

項目 年次	前年 根雪始	融雪 期	根雪 期間	耕鋤 始	降雪 終	晩霜	初霜	無霜 期間	降雪 始	農耕期間の積算(5～9月)		
	月日	月日	日数	月日	月日	月日	月日	日数	月日	平均気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (h)
本年	11.30	4.3	124	4.15	4.8	5.16	10.20	156	10.30	2230.7	432.0	650.6
平年	12.1	4.9	129	4.26	5.1	5.22	10.8	138	11.1	2339.3	519.0	609.5
比較	1	6	5	11	23	6	12	18	2	108.6	87.0	41.1

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。

2. 当場の作況^{注)}

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦(平成13年9月播種) 作況: やや不良

事由: 播種は降雨のため平年より2~3日遅く、また、秋期の気温は平年より低く、根雪前の草丈、茎数は平年より劣った。根雪始は11月30日で平年より1日早く、融雪期は平年より6日早い4月3日で積雪期間は平年より5日少ない124日であった。雪腐病の発生は少なかったが雪腐病に弱い品種では融雪後、下葉の黄化が見られた。4月中旬から5月上旬、6月上旬は高温で経過し、その他の期間も平年並であったため生育はかなり早く進み、出穂期は平年より6日~9日早かった。早生~やや早生品種では高温と5月、6月の少雨の影響により全体の生育量が小さくなった。特に干ばつ等の被害が大きかった「ホクシン」は穂数が平年よりかなり少なくなり、この後の生育、収量は網走管内の平均的な傾向とは異なる結果となった。6月下旬の低温、7月の降雨、曇天の影響により生育は停滞し、成熟期は平年より早いものの、その差は1~3日であった。早生、やや早生品種では穂数の減少と「タクネコムギ」では先端不稔もみられたため収量は低収となった。中生品種では生育量がほぼ平年並みに確保され、また、低温により登熟期間が長くなったため、千粒重、一穂重が重く、多収となった。粒の外観品質は、「ホクシン」は1等であったが、その他の品種では粒の色が劣り、規格外または2等であった。

以上のことから本年の作況はやや不良である。

秋まき小麦(平成13年9月播種)の生育期節と収量

品種名		タクネコムギ [*]			ホクシン			チホクコムギ [*]			ホロシリコムギ [*]		
項目	年	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
		播種期(平成13年月日)		9.16	9.14	2	9.17	9.14	3	9.16	9.14	2	9.16
出芽期(平成13年月日)		9.24	9.22	2	9.25	9.22	3	9.24	9.22	2	9.24	9.22	2
出穂期(平成14年月日)		5.29	6.04	6	6.2	6.11	9	6.7	6.14	7	6.7	6.13	6
成熟期(平成14年月日)		7.20	7.22	2	7.21	7.24	3	7.26	7.27	1	7.28	7.29	1
草丈(cm)	平成13年11月20日	15.7	21.7	6.0	16.1	20.7	4.6	14.9	23.1	8.2	16.4	22.5	6.1
	平成14年5月20日	53.6	47.9	5.7	45.9	43.1	2.8	46.7	42.8	3.9	52.1	47.9	4.2
	平成14年6月20日	97.4	104.8	7.4	83.6	95.3	11.7	95.2	91.4	3.8	100.8	100.1	0.7
茎数(本/m ²)	平成13年11月20日	1309	1925	616	1038	1594	556	1170	1847	677	1213	1669	456
	平成14年5月20日	1191	1313	122	993	1400	407	1311	1324	13	1198	1374	176
	平成14年6月20日	753	875	122	501	773	272	738	765	27	688	748	60
稈長(cm)	成熟期	91	95	4	76	87	11	89	91	2	93	98	5
穂長(cm)	成熟期	7.4	7.6	0.2	7.9	8.4	0.5	7.0	7.2	0.2	8.4	8.4	0.0
穂数(本/m ²)	成熟期	769	842	73	502	742	240	718	700	18	649	639	10
子実重(kg/10a)		379	465	86	402	567	165	631	487	144	559	514	45
同上平年比(%)		82	100	18	71	100	29	130	100	30	109	100	9
リットル重(g)		772	789	17	804	804	0	776	765	11	793	777	16
千粒重(g)		36.9	37.6	0.7	39.1	38.0	1.1	37.1	34.8	23	42.8	41.1	1.7
品質(検査等級)		規格外	1	-	1	2	1	2	2	0	2	2	0

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」、「チホクコムギ」、「ホロシリコムギ」は平成8年、12年を除く5か年の平均。ただし、「ホクシン」は平成8年、10年を除く5か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/m²、その他の品種の播種量は340粒/m²。

2) 秋まき小麦(平成14年9月播種) 作況: やや良

事由: 播種は9月13日に行い、出芽期は9月22日ですれも平年より1日~2日早かった。出芽は良好で9月下旬から10月中旬の気温は平年並か高く、特に10月上旬は高かったため、草丈は高く、茎数も多い。

以上のことから目下の作況はやや良である。

秋まき小麦(平成14年9月播種)の生育期節

品種名	播種期(月・日)			出芽期(月・日)			草丈(cm)			茎数(本/㎡)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
タネコムギ	9.13	9.14	1	9.20	9.22	2	25.4	22.2	3.2	2288	1860	428
ホクシン	9.13	9.14	1	9.20	9.22	2	24.6	21.1	3.5	2074	1463	611
チホコムギ	9.13	9.14	1	9.20	9.22	2	27.5	21.2	6.3	2242	1825	417
ホロシリコムギ	9.13	9.15	2	9.20	9.22	2	25.9	20.6	5.3	2187	1549	638

注) 平年値は前7か年中、「タネコムギ」は平成12年、14年、「ホクシン」は平成10年、14年、「チホコムギ」は平成8年、14年、「ホロシリコムギ」は平成8年、12年を除く5か年の平均。
「ホクシン」の播種量は255粒/㎡、その他の品種の播種量は340粒/㎡。

3) 春まき大麦(二条大麦) 作況: 不良

事由: 播種期は平年より1日早い5月1日であった。播種後の気温は高かったが、播種前後に降雨が無く、土壌が乾燥していたため、出芽むらが生じ、出芽期は平年並であった。出芽期以後も降雨が無く、出芽の劣る部分が発生した。出芽後も圃場は干ばつ気味であり、初期生育において、葉数の増加は早く進んだが、生育量は少なく、草丈は短かった。分けつの発生も劣り、茎数は少なかった。6月以降も生育量は劣り、分けつの発生が少なかった。出穂期は平年より2日早い7月4日であった。出穂後の気温は平年並かやや低く、日照時間もやや少ないため、登熟期間は平年より1週間長くなり、粒の充実は良好であった。倒伏の発生は無かったが生育量が少なかったことから、穂数は平年比84%と少なく、子実重は平年比91%と低収であった。千粒重は平年より重く、整粒歩合は平年より高かった。成熟期前後の降雨により穂発芽が発生した。

以上のことから本年の作況は不良である。

二条大麦の生育期節と収量

項目	品種名	りょうふう		
	年・比較	本年	平年	比較
播種期(月・日)		5. 1	5. 2	1
出芽期(月・日)		5.14	5.14	0
出穂期(月・日)		7. 4	7. 6	2
成熟期(月・日)		8. 9	8. 5	4
草丈(cm)	5月20日	7.2	8.8	1.6
	6月20日	39.4	46.7	7.3
稈長(cm)	7月20日	74	92	18
莖数(本/m ²)	6月20日	773	1008	235
穂数(本/m ²)	7月20日	529	633	104
成熟期おける	稈長(cm)	74	92	18
	穂長(cm)	6.6	6.2	0.4
	穂数(本/m ²)	529	633	104
	1穂粒数	22.1	21.0	1.1
	不稔率(%)	1.2	2.2	1.0
成熟期の倒伏程度		無	少	-
子実重(kg/a)		33.0	36.3	3.3
同上平年比(%)		91	100	9
リットル重(g)		651	656	5
千粒重(g)		45.9	40.6	5.3
整粒歩合(%)		97.6	88.0	9.6
整粒重(kg/a)		32.2	32.1	0.1
粗蛋白質含量(%)		-	11.8	-

注) 平年値は前7か年中、平成9、12年を除く5か年平均。

粗蛋白質含量は分析中である。

4) 春まき小麦 作況：平年並

事由：融雪期は平年より6日早い4月3日で、圃場の乾燥も早く、耕鋤始は平年より11日早い4月15日であった。播種は平年より12日早い4月16日に行い、出芽は良好で出芽期は平年より16日早い4月26日であった。その後も気温は平年並か高めに推移し、生育は平年を上回っていたが5月、6月は少雨で生育が早まったこともあり、6月20日の莖数は平年より少なかった。出穂は平年より2週間早い6月17日であった。その後、気温は一転して低温となり、成熟期は平年より7日早い8月8日であった。7月、8月は曇天、雨の日が多かったため分けつの無効化が進み、穂数は平年より少なくなった。登熟期間は低温のため平年より1週間長くなり千粒重は平年よりかなり重く、子実重は平年比108%であった。リットル重は平年を上回り、外観品質は平年並の2等であった。しかし、収穫期の雨により一部穂発芽が発生し、内部品質はやや劣り、総合的品質評価は平年よりやや劣った。

以上のことから本年の作況は平年並である。

春まき小麦の生育期節と収量

品種名		ハルユタカ		
項目	年	本年	平年	比較
		播種期	4.16	4.28
出芽期	4.26	5.12	16	
出穂期	6.17	7.1	14	
成熟期	8.8	8.15	7	
草丈(cm)	5月20日	23.4	14.5	8.9
	6月20日	70.5	59.9	10.6
茎数(本/m ²)	5月20日	665	384	281
	6月20日	568	765	197

品種名		ハルユタカ		
項目	年	本年	平年	比較
		稈長(cm) 成熟期	85	86
穂長(cm) 成熟期	8.0	8.2	0.2	
穂数(本/m ²) 成熟期	437	500	63	
子実重(kg/10a)	402	371	31	
同上平年比(%)	108	100	8	
リットル重(g)	798	780	18	
千粒重(g)	44.7	37.2	7.5	
品質(検査等級)	2	2	0	

注) 平年値は前7か年中、平成9年、11年を除く5か年の平均。

5) とうもろこし 作 況：平年並

事 由：播種期は平年より4日早かったが、播種期前後の降水不足により出芽がやや遅れ、出芽期は平年より1日早かった。その後は全般に低温および日照不足が続いたことから、生育がやや遅延し、開花期は平年より3日、抽糸期は平年より4日遅かった。

収穫期は黄熟期に達した10月1日で、平年より8日遅かった。乾物茎葉重は平年よりやや多く、乾物雌穂重はやや少なかった。総体の乾物率、乾物総重、推定TDN収量はいずれも平年並であった。

以上のことから、本年の作況は平年並である。

とうもろこしの生育期節と収量

項 目	ディアHT			
	本 年	平 年	比 較	
播 種 期 (月・日)	5.15	5.19	4	
出 芽 期 (月・日)	5.29	5.30	1	
開 花 期 (月・日)	8.6	8.3	3	
抽 糸 期 (月・日)	8.11	8.7	4	
収 穫 期 (月・日)	10.1	9.23	8	
収 穫 期 の 熟 度	黄熟初期	黄熟初期	-	
草 丈 (cm)	6月20日	31.1	25.1	6.0
	7月20日	98.2	136.2	38.0
	8月20日	260	264	4
稈 長 (cm)	9月20日	225	230	5
葉 数 (枚)	6月20日	3.7	3.6	0.1
	7月20日	10.1	11.8	1.7
	8月20日	12.9	14.3	1.4
生 総 重 (kg/10a)	6,001	5,791	210	
乾物茎葉重 (kg/10a)	794	733	61	
乾物雌穂重 (kg/10a)	690	734	44	
乾物総重 (kg/10a)	1,484	1,467	17	
推定TDN収量 (kg/10a)	1,049	1,050	1	
同上平年比 (%)	100	100	0	
総体の乾物率 (%)	24.7	25.6	0.9	
不稔個体割合 (%)	0.0	0.4	0.4	

注) 平年値は前4か年の平均。

$$\text{推定TDN収量} = \text{乾物茎葉重} \times 0.582 + \text{乾物雌穂重} \times 0.850$$

6) 大豆 作 況：やや不良

事 由：平年より2日早い5月22日に播種を行った。播種後の5月6半旬以降高温に推移したため、出芽は平年より5日早かった。出芽後は6月上旬が高温に、中旬は低温に推移したため、生育の進行には緩急がみられたが、平均すると概ね順調な生育で、6月、7月の主茎長、本葉数はほぼ平年並であった。7月下旬以降低温に経過したものの、開花始はほぼ平年並で着莢に対する影響は軽微であり着莢障害もほとんど見られず、着莢数はほぼ平年並であった。8月下旬以降やや低温に経過したものの、10月上旬は高温であったことから、成熟期は平年より「トヨコマチ」が3日、「トヨホマレ」が5日早かった。百粒重は両品種ともに平年に比べてやや軽かったが、子実重は「トヨコマチ」が284kg/10a、「トヨホマレ」が288kg/10aとほぼ平年並であった。子実の品質は、開花後の低温による裂開粒、臍および臍周辺着色粒の発生のため特定加工用大豆となり、平年より劣った。

以上のことから本年の作況はやや不良である。

大豆の生育期節と収量

項 目	品種名	トヨコマチ			トヨホマレ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(月.日)		5.22	5.24	2	5.22	5.24	2
出芽期(月.日)		6.3	6.8	5	6.3	6.8	5
開花始(月.日)		7.22	7.22	0	7.24	7.25	1
成熟期(月.日)		10.2	10.5	3	10.5	10.10	5
主茎長 (cm)	6月20日	9.5	8.1	1.4	6.6	5.8	0.8
	7月20日	37.3	39.6	2.3	32.7	34.2	1.5
	8月20日	57.6	60.4	2.8	56.1	58.6	2.5
	9月20日	58.6	61.1	2.5	56.0	58.0	2.0
	成熟期	58.6	60.5	1.9	56.0	58.1	2.1
本葉数	6月20日	0.8	0.6	0.2	0.6	0.5	0.1
	7月20日	5.9	6.0	0.1	6.0	6.0	0.0
主茎 節数	8月20日	10.7	11.0	0.3	10.8	11.7	0.9
	9月20日	10.8	11.0	0.2	11.0	11.7	0.7
	成熟期	10.8	11.0	0.2	11.0	11.7	0.7
分枝数 (本/株)	7月20日	2.4	2.0	0.4	2.3	1.4	0.9
	8月20日	5.8	5.1	0.7	4.8	4.3	0.5
	9月20日	5.4	5.0	0.4	4.6	4.2	0.4
	成熟期	5.4	5.0	0.4	4.6	4.0	0.6
着莢数 (個/株)	8月20日	64.7	62.6	2.1	61.9	66.6	4.7
	9月20日	59.4	56.5	2.9	65.8	65.3	0.3
	成熟期	59.4	57.6	1.8	65.8	66.2	0.4
子実重(kg/10a)		284	290	6	288	292	4
同上平年比(%)		98	100		99	100	
百粒重(g)		30.4	32.5	2.1	29.9	31.1	1.2
屑粒率(%)		1.1	1.1	0.0	1.4	0.7	0.7
品質(検査等級)		特定加工用合格	2下		特定加工用合格	2中	

注) 平年値は前7か年中、平成10年と12年を除く5か年の平均。

7) 小豆

作 況：良

事 由：平年並の5月23日に播種を行った。播種後の5月6半旬～6月上旬にかけて高温に推移したため、出芽は平年より2日早かったが、その後の低温により生育は若干停滞した。6月中旬は低温であったが、7月上旬以降の気温は平年並に経過したため、7月20日の主茎長、本葉数、分枝数ともにほぼ平年並であった。7月下旬の低温により開花はやや遅れ、8月の低温により着莢および莢の伸張は緩慢であったが成熟期の着莢数は平年に比べ株当たり2～3莢少ない程度にとどまった。降霜害もなく成熟期が平年より16日遅れ、登熟期間が長かったことから百粒重が平年より20%以上重くなり、子実重は2品種ともに平年比約30%増の多収となった。しかし、灰色かび病の発生による腐敗粒が発生し、くず粒率が平年よりやや多くなったため、子実の品質は平年よりやや劣った。

以上のことから本年の作況は良である。

小豆の生育期節と収量

項 目	品 種 名	エリモショウズ			サホロショウズ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(月・日)		5.23	5.23	0	5.23	5.23	0
出芽期(月・日)		6.8	6.10	2	6.8	6.10	2
開花始(月・日)		7.30	7.27	3	7.28	7.25	3
成熟期(月・日)		10.9	9.23	16	10.3	9.17	16
主 茎 長 (cm)	6月20日	3.8	3.2	0.6	3.4	3.1	0.3
	7月20日	11.6	11.1	0.5	10.4	10.7	0.3
	8月20日	47.1	48.4	1.3	43.3	41.4	1.9
	9月20日	52.3	51.9	0.4	45.1	41.8	3.3
	成熟期	52.3	51.6	0.7	45.1	41.8	3.3
本葉数	6月20日	0.2	0.4	0.2	0.3	0.4	0.1
	7月20日	4.8	4.7	0.1	4.7	4.6	0.1
主 茎 節 数	8月20日	12.0	13.1	1.1	10.5	10.7	0.2
	9月20日	12.7	13.3	0.6	10.5	10.9	0.4
	成熟期	12.7	13.5	0.8	10.5	10.9	0.4
分 枝 数 (本/株)	7月20日	0.2	0.1	0.1	0.4	0.1	0.3
	8月20日	2.7	3.1	0.4	3.3	3.8	0.5
	9月20日	2.4	2.8	0.4	3.0	3.3	0.3
	成熟期	2.7	2.8	0.1	3.2	3.5	0.3
着 莢 数 (個/株)	8月20日	20.9	33.6	12.7	20.7	38.7	18.0
	9月20日	40.0	46.4	6.4	37.2	45.5	8.3
	成熟期	46.0	47.6	1.6	42.5	46.2	3.7
子実重(kg/10a)		449	353	96	377	291	86
同上平年比(%)		127	100		130	100	
百 粒 重 (g)		18.5	14.7	3.8	19.5	16.1	3.4
屑 粒 率 (%)		3.2	2.1	1.1	5.2	4.1	1.1
品質(検査等級)		3中	2下		3中	3上	

注) 平年値は前8か年中、平成9年と10年および試験を中止した12年を除く5か年の平均。

8) 菜豆 作 況：金時 良、手亡 平年並

事 由：平年より1日早い5月23日に播種を行った。播種後の5月6半旬以降高温に経過したため、出芽は平年より5～7日早かった。出芽期直後の6月上旬が高温に、中旬は低温に推移したため、生育の進行には緩急がみられたが、平均すると概ね順調な生育であった。開花始めはほぼ平年並であり、8月が低温に経過したことから、登熟は緩慢で成熟期は金時類が平年より10～12日、雪手亡が13日それぞれ遅れた。金時類の着莢数は2品種ともに平年並であったが、百粒重は15～16%重かったため、子実重は「大正金時」は357kg/10a、「福勝」では386kg/10aとなり、それぞれ平年比40%、33%多収となった。一方、「雪手亡」は着莢数、百粒重ともに平年並で子実重も380kg/10aであり、ほぼ平年並であった。子実の品質は、金時類は未熟粒がやや多かったため平年より劣り、雪手亡はかび粒の発生が見られ平年よりやや劣った。

以上のことから、本年の作況は金時が良、手亡は平年並である。

菜豆の生育期節と収量

項 目	大正金時			雪手亡			福 勝			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月・日)	5.23	5.25	2	5.23	5.25	2	5.23	5.25	2	
出芽期(月・日)	6.6	6.12	6	6.3	6.10	7	6.7	6.12	5	
開花始(月・日)	7.12	7.13	1	7.24	7.22	2	7.14	7.13	1	
成熟期(月・日)	9.14	9.2	12	10.2	9.19	13	9.17	9.7	10	
草 丈 (cm)	6月20日	9.4	7.6	1.8	5.7	5.4	0.3	9.2	7.6	1.6
	7月20日	35.1	32.6	2.5	35.3	31.1	4.2	38.1	34.4	3.8
	8月20日	41.4	41.1	0.3	57.0	55.1	1.9	44.8	45.8	1.0
	9月20日	47.5	41.9	5.6	64.5	56.9	7.6	51.1	46.5	4.6
	成熟期	47.5	41.9	5.6	64.5	56.9	7.6	51.1	45.3	5.8
本葉数	6月20日	1.0	0.4	0.6	1.0	0.5	0.5	1.1	0.5	0.6
	7月20日	3.7	3.3	0.4	6.3	6.2	0.1	3.8	3.4	0.4
主 茎 節 数	8月20日	5.6	5.2	0.4	10.0	9.6	0.4	6.0	5.3	0.7
	9月20日	5.6	5.3	0.3	9.9	9.5	0.4	6.1	5.5	0.6
	成熟期	5.6	5.3	0.3	9.9	9.5	0.4	6.1	5.4	0.7
分 枝 数 (本/株)	7月20日	4.0	3.2	0.8	6.3	5.3	1.0	3.9	2.7	1.2
	8月20日	4.6	3.9	0.7	6.9	7.9	1.0	3.8	3.5	0.3
	9月20日	3.6	3.6	0	5.9	6.8	0.9	3.6	3.2	0.4
	成熟期	3.6	3.6	0	5.9	6.8	0.9	3.6	3.1	0.5
着 莢 数 (個/株)	8月20日	26.2	18.5	7.7	46.5	38.1	8.4	21.6	18.2	3.4
	9月20日	18.6	17.8	0.8	30.3	31.5	1.2	16.5	16.5	0
	成熟期	18.6	17.8	0.8	30.3	31.5	1.2	16.5	16.2	0.3
子実重(kg/10a)	357	255	102	380	390	10	386	291	95	
同上平年比(%)	140	100		97	100		133	100		
百 粒 重 (g)	79.6	69.1	10.5	34.4	33.4	1.0	97.6	84.3	13.3	
屑 粒 率 (%)	4.5	0.9	3.6	3.0	3.7	0.7	4.4	2.1	2.3	
品質(検査等級)	3下	2中		2下	2中		3下	2下		

注) 平年値は前7か年中、平成10年と13年を除く5か年の平均

9) ばれいしょ 作 況： 平年並

事 由： 植付けは平年よりやや早い5月9日に行った。植付け後の気温は平年並で、植付けから萌芽までの日数は「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年並であった。萌芽期は「男爵薯」で2日、「コナフブキ」で4日平年よりそれぞれ早かった。萌芽期以降の気温の変動が大きかったものの、両品種とも6月の茎長は平年より高く、地上部の初期生育は良好であった。開花始は「男爵薯」、「コナフブキ」ともほぼ平年並であった。地上部生育の鈍化が平年より早く、両品種とも7月及び8月の茎長は平年をかなり下回った。

早生品種の「男爵薯」は、茎葉黄変の進行が早く、枯凋期は平年より6日早い9月8日であった。7月及び8月の日照時間が少なかったことから、株当り上いも数は平年より0.9個少なく、上いも1個重は平年より11g軽かった。このため、上いも重は平年比81%と低収であった。でん粉価は夏の低温の影響で平年より高く推移し、枯凋期では1.3ポイント平年を上回った。中心空洞は8月の調査では無かったが、枯凋期の調査では微程度の発生が認められた。

晩生品種の「コナフブキ」は、倒伏の発生が少なく、比較的塊茎肥大に適した気温及び降水量で経過した。10月上旬の高温多雨により枯凋の進展は遅くなり、枯凋期は平年より13日遅い10月17日であった。上いも重は平年並に推移し、枯凋期では平年比101%とほぼ平年並であった。でん粉価は、9月の日照時間が平年より多く、降水量が平年より少なかったことから、枯凋期では平年より2.6ポイント上回った。このため、でん粉重は平年比114%と平年をかなり上回った。なお、伸長型の二次生長が中程度発生した。

以上のことから、本年の作況は早生種では不良、晩生種では良、全体としては平年並である。

ばれいしょの生育期節と収量

品種名 項目	男 爵 薯			コナフブキ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月・日)	5. 9	5.11	2	5. 9	5.13	4	
萌芽期 (月・日)	5.28	5.30	2	5.29	6. 3	5	
開花始 (月・日)	6.30	7. 1	1	7. 1	7. 3	2	
枯凋期 (月・日)	9. 2	9. 8	6	10.17	10. 4	13	
茎長 (cm)	6月20日	19.2	16.6	2.6	20.1	14.1	6.0
	7月20日	30	48	18	49	74	25
	8月20日	31	51	20	64	87	23
茎数 (本/株)	6月20日	3.2	3.5	0.3	2.4	2.8	0.4
	7月20日	3.3	3.7	0.4	2.6	2.9	0.3
	8月20日	3.5	3.6	0.1	2.8	2.9	0.1
でん粉価 (%)	8月20日	17.1	15.4	1.7	21.2	20.8	0.4
	9月20日				24.2	22.2	2.0
上いも数 (個/株)	9.0	9.9	0.9	9.3	9.5	0.2	
上いも1個重 (g)	91	102	11	119	116	3	
上いも重(kg/10a)	3,772	4,630	858	5,102	5,032	70	
同上平年比(%)	81	100		101	100		
でん粉価 (%)	16.5	15.2	1.3	24.6	22.0	2.6	
でん粉重(kg/10a)	584	651	67	1,201	1,052	149	
同上平年比(%)	90	100		114	100		

注)「男爵薯」の平年値は前7か年中、平成8年、9年を除く5か年の平均。

「コナフブキ」の平年値は前7か年中、平成7年、9年を除く5か年の平均。

10) 牧 草

作 況：良

事 由：チモシー混播草地および単播草地の調査結果を第1表に示した。萌芽期は平年より4～8日早かった。冬枯れ程度は微であった。混播草地の春の被度は平年並であった。チモシーの出穂始は平年より8～10日早く、アカクローバの開花始は平年より16日早かった。チモシーの草丈は、混播草地の早春および単播草地の早春と1番草で平年より高かった他は、平年並か平年よりやや低かった。アカクローバの草丈は、早春および1番草で平年より高かった他は平年並であった。マメ科率は、1番草で平年より高かった他は平年並であった。乾物収量は、混播草地の2番草で平年並だった他は平年より多かった。混播および単播草地の年間合計乾物収量の平年比は、それぞれ111%、132%であり、両草地を平均した年間合計乾物収量の平年比は119%であった(第2表)。

以上のことから本年の作況は良である。

第1表 チモシー混播・単播草地の生育期節と収量

項目・番草	調 査 日	混播草地				単播草地				
		本年	平年	比較	対平年 比(%)	本年	平年	比較	対平年 比(%)	
チモシー萌芽期(月・日)	-	4.15	4.19	4	-	4.15	4.20	5	-	
アカクローバ萌芽期(月・日)	-	4.9	4.17	8	-	-	-	-	-	
冬枯れ程度	5.17	微	-	-	-	微	-	-	-	
全体被度(%)	5.17	92	92	0	-	-	-	-	-	
アカクローバ被度(%)	5.17	56	54	2	-	-	-	-	-	
チモシー出穂始(月・日)	-	6.8	6.18	10	-	6.8	6.16	8	-	
チモシー出穂期(月・日)	-	6.16	6.22	6	-	6.16	6.21	5	-	
アカクローバ開花始(月・日)	-	6.9	6.25	16	-	-	-	-	-	
チモシー草丈(cm)	早 春	5.17	44	34	10	-	43	35	8	
1番草	6.18	98	100	2	-	103	94	9	-	
2番草	8.8	82	87	5	-	66	69	3	-	
3番草	10.7	52	56	4	-	40	46	6	-	
アカクローバ草丈(cm)	早 春	5.17	31	22	9	-	-	-	-	
1番草	6.18	86	77	9	-	-	-	-	-	
2番草	8.8	76	77	1	-	-	-	-	-	
3番草	10.7	44	46	2	-	-	-	-	-	
マメ科率(%)	1番草	6.18	67.6	55.0	12.6	-	-	-	-	
2番草	8.8	72.2	71.4	0.8	-	-	-	-	-	
3番草	10.7	70.6	71.3	0.7	-	-	-	-	-	
乾物率(%)	1番草	6.18	22.1	15.7	6.4	-	27.0	22.7	4.3	
2番草	8.8	11.8	16.5	4.7	-	17.1	24.0	6.9	-	
3番草	10.7	12.5	17.9	5.4	-	18.7	28.1	9.4	-	
生草収量(kg/10a)	1番草	6.18	3204	3810	606	84	1936	1758	178	110
2番草	8.8	3078	2363	715	130	1172	591	581	198	
3番草	10.7	1046	835	211	125	570	361	209	158	
合 計	-	7328	7008	320	105	3678	2710	968	136	
乾物収量(kg/10a)	1番草	6.18	705	592	113	119	523	396	127	132
2番草	8.8	358	361	3	99	200	135	65	148	
3番草	10.7	174	157	17	111	107	98	9	109	
合 計	-	1237	1110	127	111	830	629	201	132	

第2表 本年の混播・単播草地の年間合計乾物収量 (kg/10a) の平均値

草地	本年	平年	比較	対平年 比(%)
混播	1237	1110	127	111
単播	830	629	201	132
平均	1034	870	164	119

注) 1. 各草種の品種はチモシーが「ノサップ」、アカクローバが「サッポロ」である。

2. 冬枯程度は、無：0%、微：1～20%、少：21～40%、中：41～60%、多：61～80%、甚：81～100%枯死をそれぞれ示す。また混播草地の冬枯程度はチモシー・アカクローバ両者の枯死割合である。

3. 混播草地の乾物率は、チモシーとアカクローバを併せた全体についてのものである。

4. 平年値は平成7年から平成13年までの前7か年のうち、混播草地・単播草地とも平成7年と平成11年を除く5年間の平均である。

11) てんさい 作 況：平年並

事 由：移植栽培の播種はほぼ平年並で、育苗期間中の生育は順調であった。移植は平年より4日早い5月7日に行い、直播栽培の播種も同日に行った。5月上中旬の干ばつのため、移植栽培の初期生育は平年に比べて劣り、また直播栽培では立ち枯れが多く、発芽がかなり不揃いであった。その後、移植栽培の生育はほぼ平年並に回復した。特に地上部の生育は、7月下旬から8月下旬までほぼ毎日のように降雨があったため、平年を上回り旺盛に推移した。直播栽培の生育では、地上部は8月下旬から平年を上回って推移したが、低温が続いたため根部の肥大は回復しなかった。9月以降の登熟期間中は、気温が低く推移し、日照時間も平年並みに推移したため、根重、根中糖分の増加は移植・直播栽培共に平年並であった。なお、10月上旬の多雨による悪影響はみられなかった。収穫は平年並の10月21日に行った。根重は移植栽培の2品種平均で平年比100%であり、直播栽培では同93%であった。根中糖分は移植栽培の2品種平均で平年比101%、直播栽培では同100%であった。このため糖量は移植栽培の2品種平均で平年並（平年比101%）、直播栽培では平年を下回った（同94%）。

以上のことから、本年の作況は平年並である。

てんさいの生育期節と収量

栽培法 品種名	移 植						直 播			
	モノホマレ			ストーク			モノホマレ			
項目	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月日)	3.28	3.27	1	3.28	3.27	1	5.7	5.11	4	
移植期(月日)	5.7	5.11	4	5.7	5.11	4	-	-	-	
出芽期(月日)	-	-	-	-	-	-	5.18	5.22	4	
収穫期(月日)	10.21	10.20	1	10.21	10.20	1	10.21	10.20	1	
草 丈 (cm)	6月20日	28.1	24.2	3.9	30.9	25.3	5.6	11.4	13.4	2.0
	7月20日	56.3	55.2	1.1	55.7	55.8	0.1	45.2	51.6	6.4
	8月20日	66.9	60.5	6.4	65.6	48.6	17.0	67.8	64.5	3.3
	9月20日	65.5	63.5	2.0	66.3	49.0	17.3	73.0	65.9	7.1
生葉数 (枚)	6月20日	11.6	12.4	0.8	11.4	12.0	0.6	5.0	6.8	1.8
	7月20日	21.3	21.9	0.6	20.6	21.5	0.9	17.6	20.1	2.5
	8月20日	27.3	27.0	0.3	25.1	22.2	2.9	25.5	25.5	±0.0
	9月20日	32.1	30.7	1.4	32.0	25.4	6.6	29.2	28.8	0.4
根 周 (cm)	7月20日	20.8	20.4	0.4	24.2	22.5	1.7	14.2	16.4	2.2
	8月20日	26.1	26.9	0.8	29.6	30.3	0.7	22.9	24.5	1.6
	9月20日	30.9	31.5	0.6	34.3	34.4	0.1	27.4	29.1	1.7
茎葉重(kg/10a)	7171	5042	2129	7598	4636	2962	7549	5224	2325	
根 重(kg/10a)	6075	5903	172	5280	5420	140	4796	5168	372	
同上平年比(%)	103	100	3	97	100	3	93	100	7	
根中糖分(%)	17.58	17.65	0.07	18.30	18.04	0.26	17.15	17.08	0.07	
同上平年比(%)	100	100	±0	101	100	1	100	100	±0	
糖 量(kg/10a)	1068	1036	32	965	968	3	822	879	57	
同上平年比(%)	103	100	3	100	100	±0	94	100	6	

注) 平年値は前7か年中、移植栽培は平成7、10年を除く5か年の平均、直播栽培は平成10、11年を除く5か年の平均。

12) たまねぎ

作 況：不 良

事 由：播種は平年より3日遅い3月12日に行い、出芽期は平年より2日遅い3月25日であった。苗の生育期間中を通じて高温傾向に推移したため、生育は順調であった。4月以降も高温で降水量が少なく、圃場の融雪・乾燥が進んだため、移植は平年より2日早い5月15日に行った。移植時の苗は、葉鞘径がやや細いものの、草丈・葉数はほぼ平年並であった。移植後から6月中旬までの少雨・干ばつのため、苗の活着は遅れ、葉先枯れが進んだ。その後は、6月下旬の著しい低温と7月上旬の少雨により生育は停滞した。7月中旬の多雨と平年並の気温により、生育はやや回復したものの、平年よりは依然大きく遅れた。さらに、7月下旬以降の日照不足により、肥大期は10日以上遅れ、その後の球肥大も緩慢であった。8月下旬の低温により、倒伏および枯葉は大幅に遅れて生育期間は長くなったが、肥大期までの地上部生育が劣っていたため、一球重の増加は少なかった。収穫期も平年より20日程度遅れた。収穫物の一球重は軽く、L大規格以上の球はほとんど見られなかった。青立ちによる収穫不能株も多かったため、収量は極めて低かった。変形、分球等が少なかったため、規格内率はやや高かった。また、低温湿潤な気象経過であったため、白斑葉枯病の発生もやや多かった。

以上のことから本年の作況は不良である。

なお、近隣のたまねぎ栽培地帯で、定植後に適度のかん水を行い、初期生育を確保した圃場では、球肥大は良好で昨年並みの多収となった。

たまねぎの生育期節と収量

項 目	品種名	スーパー北もみじ			北もみじ			改良オホーツク1号		
		年・比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年
播種期	(月・日)	3.12	3.9	3	3.12	3.11	1	3.12	3.10	2
出芽期	(月・日)	3.25	3.23	2	3.25	3.24	1	3.27	3.21	6
移植期	(月・日)	5.15	5.17	2	5.15	5.18	3	5.15	5.17	2
球肥大期	(月・日)	8.17	8.2	15	8.15	8.3	12	8.4	7.25	10
倒伏期	(月・日)	9.26	8.24	33	9.13	8.19	25	9.1	8.12	20
枯葉期	(月・日)	10.5	9.5	30	10.2	9.1	31	9.18	9.1	17
収穫期	(月・日)	10.15	9.25	20	10.15	9.23	22	10.1	9.24	7
草 丈(cm)	5月20日	25.2	25.9	0.7	26.4	25.1	1.3	27.3	27.9	0.6
	6月20日	16.5	28.3	11.8	16.1	22.9	6.8	20.0	30.9	10.9
	7月20日	46.6	77.7	31.1	53.7	71.4	17.7	48.3	73.2	24.9
	8月20日	65.0	72.2	7.2	74.8	69.2	5.6	61.5	66.2	4.7
生 葉 数(枚)	5月20日	3.1	3.3	0.2	2.9	2.8	0.1	3.1	3.2	0.1
	6月20日	3.2	4.3	1.1	2.4	3.9	1.5	3.1	4.5	1.4
	7月20日	8.0	9.2	1.2	7.5	8.3	0.8	8.4	9.0	0.6
	8月20日	8.4	8.1	0.3	7.8	7.2	0.6	7.7	7.0	0.7
葉 鞘 径(mm)	5月20日	3.3	4.0	0.7	3.5	3.7	0.2	3.5	3.9	0.4
	6月20日	4.3	7.5	3.2	3.4	6.6	3.2	4.0	8.2	4.2
	7月20日	11.3	17.7	6.4	11.5	15.5	4.0	12.8	17.7	4.9
	8月20日	18.8	19.5	0.7	18.8	17.3	1.5	16.9	17.3	0.4
葉身生重(g)	7月20日	23.8	84.8	61.0	26.2	59.0	32.8	27.9	84.1	56.2
球 径(mm)	7月20日	13.9	24.1	10.2	14.0	21.8	7.8	17.0	29.8	12.8
	8月20日	42.4	67.7	25.3	45.3	62.8	17.5	56.1	72.8	16.7
球 生 重(g)	8月20日	56.3	161.0	104.7	64.7	131.4	66.7	92.5	192.4	99.9
	9月20日	141.3	199.0	57.7	158.3	175.0	16.7	170.8	195.7	24.9
葉身乾物率(%)	8月20日	8.7	9.0	0.3	8.5	9.8	1.3	9	8.4	0.6
総 収 量 (kg/a)		382	538	156	415	496	81	423	532	109
規格内収量 (kg/a)		372	508	136	400	452	52	405	448	43
同上平年比 (%)		73	100	27	88	100	12	90	100	10
規格内率 (%)		97	94	3	96	91	5	96	85	11
平均一球重 (%)		128	199	71	137	170	33	143	193	50

注) 平年値は前7か年中、「スーパー北もみじ」は平成12、13年を除く、「北もみじ」は平成7、10年を除く、「改良オホーツク1号」は平成10、12年を除くそれぞれ5か年の平均。

付表 各作物の耕種概要(1)

作物名	一区	反復	前作物	畦幅	株間	一株 本数	播種粒数	播種量	株数
	面積 m ²			cm	cm		粒/m ²	kg/10a	株/10a
1.秋まき小麦	6.0	4	緑肥大豆	30.0	条播	-	340(255)	-	-
2.二条大麦	7.2	4	緑肥大豆	30.0	条播	-	340	-	-
3.春まき小麦	7.2	4	菜豆	30.0	条播	-	340	-	-
4.とうもろこし	11.6	3	大豆	66.0	20.0	1	-	-	7,576
5.大豆	9.6	3	てん菜	60.0	20.0	2	-	-	8,333
6.小豆	9.6	3	てん菜	60.0	20.0	2	-	-	8,333
7.菜豆	9.6	3	てん菜	60.0	20.0	2	-	-	8,333
8.ばれいしょ	25.9	2	秋まき小麦	72.0	30.0	1	-	-	4,630
9.てん菜	100	3	春まき小麦	60.0	23.8	1	-	-	7,003
10.牧草 TY・RC混播草地	8.8	4	緑肥えん麦	散播	-	-	-	TY:1.0 RC:0.4	-
TY単播草地	6.0	4	緑肥えん麦	60.0	条播	-	-	1.0	-
11.たまねぎ	9.0	2	たまねぎ	30.0	10.5	1	-	-	3,175

注) 秋まき小麦の播種粒数欄の()は「ホクシン」の播種粒数を示す。

付表 各作物の耕種概要(2)

作物名	施肥量 (kg/10a)					備考
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥	
1.秋まき小麦	9.0	14.4	9.6	4.0	3,000	重過石:150 炭カル:150
2.二条大麦	4.0	16.2	9.4	3.4		
3.春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0		
4.とうもろこし	14.0	22.0	12.0	4.0		
5.大豆	1.8	20.0	7.8	3.0		
6.小豆	4.0	20.0	11.2	4.0		
7.菜豆	4.0	16.0	9.3	3.3		
8.ばれいしょ	4.8	12.0	8.4	3.0		
9.てん菜	15.0	21.3	13.8	5.0		
10.牧草 TY・RC混播草地	6.0	12.0	14.0	2.5	2,000	炭カル:200、タフリン:28.6 同上 炭カル:80 アグリ-ス(微量元素):3.8
TY単播草地	14.5	15.0	14.5	2.3		
11.たまねぎ	12.8	29.6	12.8	3.5		

注) TYはチモシー、RCはアカクローバを示す。